

## 付録4 「決定分析と解決（DAR）」のまとめ

### 【決定分析と解決】

目的：『決定分析と解決』の目的は、特定された選択肢を確立された基準に照らして評価する正式評価プロセスを使用して、可能な決定を分析することである。

#### SP1.1 決定分析の指針を確立する

正式評価プロセスを必要とする課題を決定するための指針を確立し維持する。

「すべての決定が、正式評価プロセスを必要とするほど重要であるとは限らない。些細であるか本当に重要であるかの選択は、明示的な手引きなしでは不明確である。」

#### SP1.2 評価基準を確立する

選択肢の評価の基準、およびこれらの基準の相対的な等級を確立し維持する。

「評価基準は、解の選択肢を評価する為の基盤を提供する。」

#### SP1.3 解の選択肢を特定する

課題に対応するための解の選択肢を特定する。

「現実的な範囲で多くの利害関係者に入力を求めることによって、より広範囲な選択肢を表面化させることができる。多様なスキルおよび経歴を持つ利害関係者からの入力は、チームが仮定、制約、および偏向を特定しはっきりさせるために役立てることができる。」

#### SP1.4 評価手法を選択する

評価手法を選択する。

「確立された基準に照らして解の選択肢を評価するための手法は、シミュレーションから、確率論的モデルおよび決定理論の使用にまでおよぶ。」

- ・ 費用の比較検討
- ・ 現場経験およびプロトタイプに基づく推定
- ・ テスト
- ・ 利用者のレビューおよびコメント

#### SP1.5 選択肢を評価する

確立された基準および手法を使用して、解の選択肢を評価する。

「解の選択肢の評価には、分析、議論、およびレビューが必然的に含まれる。」

#### SP1.6 解を選定する

評価基準に基づいて選択肢から解を選定する。

「解の選定には、選択肢の評価の結果を比較検討することが必然的に含まれる。」

（ある解が選定された理由および別の解が却下された理由の両方を記録することが重要である。）